

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.34
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp



9月定例議会報告 9/1▶9/22



中村は7日(水)の午後に議長役を務めました。

9月定例議会が9月1日(木)から22日(木)にわたって行われ、平成22年度の決算のほか補正予算など16議案について審議。いずれも原案通り可決されました。

質疑・一般質問は7日(水)、8日(木)の2日間で計7名の議員が登壇。特に今回は、芳賀地区広域行政事務組合が建設計画中のごみ処理施設に関して7名のうち4名が質問し、執行部との激しいやりとりも見られました。

議場コンサート出演者募集中！

真岡市議会では、より親しみやすい議会を目指し2月定例議会(来年3月上旬)にて議場コンサートの開催を予定しており、現在、出演して下さる方を募集しています。応募資格は市内で活動している音楽愛好者・団体で、締切は11/18(金)必着です。

お問い合わせ・お申し込みは議会事務局 TEL (83)-8176 まで

真岡市の復興に向けて 建議要望を市長に提出！

9月定例議会の最終日である9月22日(木)、中村が所属する会派『真政クラブ・公明』では、平成24年度の市政に対して計58件の建議要望を井田市長に提出しました。なお今回、中村が出した要望では震災復興・防災関係の課題をはじめ、以下のようなものが新たに盛り込まれました。

【震災復興・防災関係】

- 震災関係(放射能等含む)の市民に対する情報提供・発信の見直し
 - 防災無線の再構築
 - ホームページの更新頻度の見直し
 - 相談窓口機能の充実
(精神的なカウンセリング、住宅に関する困りごと相談等)
- 放射性物質の測定
 - 学校給食に関する安全性確保と情報提供
- 耐震関係
 - 市内小・中学校の耐震補強工事の推進

4. 地域防災計画等(水防計画含む)の見直し

- 避難所の再検討と情報提供
- 洪水、崖崩れ等に関する危険箇所の把握と情報提供

【観光行政関係】

- NHK大河ドラマの誘致活動推進
- 写真愛好家を巻き込んだSL関連イベントの実施

【教育関係】

- 市内小・中学校への専任司書の配置



関東若手市議会議員の会 副会長に選出されました

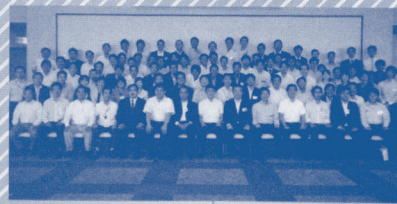
8月18日(木)に東京都文京区の文京シビックセンターで行われた『関東若手市議会議員の会』の総会において、中村は2011-2012年度の副会長に選出されました(任期は2011年9月1日~2012年8月31日)。

地域主権改革が進む中、さらに各自自治体とも震災からの復旧・復興が急がれる中であって、各地域の若手議員達が活動エリアの枠を越えて連携し、新しい国づくり・まちづくりのグランドデザインを発信していけるよう、力を注いでいきたいと考えております。

【解説】若手市議会議員の会とは？

原則として35歳までに初当選した45歳までの市議会議員による超党派団体。若手市議会議員同士の連携を図り、お互いに研鑽しあうことによって、中央と地方の政治のあり方を考え、民主主義と地方自治の発展に寄与することを目的としています。全国組織は平成6年に結成され、現在の会員数は300名を超えます(関東地区の会員は約100名)。

- 2011-2012年度 関東若手市議会議員の会 役員
- 会長 中村 勝彦(山梨・甲州市議会)
 - 副会長 中村 和彦(栃木・真岡市議会)
 - 副会長 伊藤 友則(千葉・香取市議会)
 - 副会長 吉田 英司(埼玉・川口市議会)
 - 監査 藤本 好彦(山梨南アルプス市議会)
 - 事務局長 佐藤 大輔(山梨・甲州市議会)
 - 事務局次長 小川 亘(栃木・小山市議会)



市民と市政のかけ橋になりたい！
☆お気軽にお声をかけて下さい。
お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。
☆あなたのアイデアを市政にかしたい！
お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。ぜひご意見を！

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします
これまで『未来をつくる会』では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜33号までを見逃された方は、お気軽に「こちらからお送りさせていただきます。」

次回発行予定日
1月15日(日)
発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。



民生産業常任委員会

行政視察

7月12日(火)から14日(木)にかけて、民生産業常任委員会では広島県坂町、愛媛県西条市、愛媛県松山市へ行政視察に赴きました。

坂町(ごみ処理施設の運営について)



芳賀地区広域行政事務組合が進めているごみ処理施設の建設計画と、炉の規模・機種、建設・管理を担う事業者がほぼ同じである『安芸地区

衛生施設管理組合』のごみ処理施設を視察。

『流動床式ガス化溶融炉』は、熱を利用して発電を効率良く行えるメリットがある。安芸地区でも施設内での利用だけでなく売電も行うことで、発電をしない場合に比べて年間約8,000万円の経費節減ができていくという。また、以前は溶融炉内におけるトラブルが各地報告されていたが、現在までに改善が図られており、安全性の課題もクリアされていると考えられる。

その一方で、保証期間を過ぎた頃から、溶融炉内の消耗品等を短期間で更新する必要が出たため、当初の見込みよりも補修費がかさんでいるとのこと。管理運営を行う事業者に対して、行政側がどこまでチェックができるかは我々の地域でも課題になると思われる。

西条市(中心市街地活性化事業について)



西条市は、平成19年の時点で空き店舗率が43.3%になるなど、中心部の求心力低下が課題だった。そうした中、国が中心市街地活性化

のための認定制度をスタートさせたことを受け、西条市では早い段階からこの制度を活用する準備を進めてきた。

対象エリアはJR伊予西条駅周辺の140ha、ハード・ソフト両面で計45事業を行う。投入される事業費も規模が大きく、総事業費は130億円をつぎ込む予定。

駅前の再開発事業等のハード面での取り組みは、今回視察した議員の間でも賛否が分かれた。

しかし、計画の中で明確な数値目標を掲げ、その目標に向けてまちの中をエリア分け(商業拠点エリア、環境拠点エリア、居住エリア)し、回遊性を高める具体的な方策を掲げているなど、単なる『お手盛り』的な内容ではないことは、計画を進行させている現時点でも高く評価できる。

松山市(サンシャインプロジェクトについて)



松山市は年間の日照時間が長く、全国平均を大きく超えていることに着目し、平成20年度から太陽光を中心とした再生可能エネルギーの活用

で脱温暖化と産業創出を目指す『松山サンシャインプロジェクト』を立ち上げた。

学校を中心とした公共施設にソーラー発電施設を積極的に設置しているほか、個人・法人向けに市独自のソーラー発電設置補助制度を行っており、15万kW強の発電を市内全域で取り組む目標を立てている。

こうしたことを行うようになった背景には、ドイツで“環境都市”として名高いフライブルグ市と姉妹都市を締結していることも大きいように思われたが、自分達が住む地域の特色を発掘し、地域のブランド化、さらには社会問題の解決にもつなげようとしている点は非常に興味深い。

この視察では右記の金額が公費でまかなわれました。(議員1人あたり)

※当然のことですが、視察中の飲食代は、全て議員の個人負担です。

※議員日当(3,300円×3日)の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

総額
内訳

92,620円

出所

議会費のうち旅費

交通費、宿泊費、議員日当など



中村かずひの活動日誌

7月

- 1日 清溪セミナー実行委員会(於:東京・日本青年館)
- 3日 芳賀支部消防操法大会
『大谷広報』編集会議
- 4日 あいさつボランティア
ひまわり園訪問
(『ひばりの会』の活動として)
- 5日 学校支援ボランティアを個人視察(真岡西小学校)
- 6日 真岡新聞音訳作業(『ひばりの会』の活動として)
茂木町雇用創造推進協議会主催セミナー(於:茂木町)
- 7日 夏祭り実行委員会報告会
- 9日 日本青年会議所関東地区協議会こだま大会(於:埼玉県本庄市)
- 12~ 民生産業常任委員会行政視察
- 14日 (広島県坂町、愛媛県西条市、愛媛県松山市)
- 15日 市議会だより編集委員会
- 16日 とちぎローカルネットワーク『野嵐会』(於:鹿沼市)
- 17日 伊夜日子会奉仕作業
- 20日 全国若手市議会議員の会研修会(於:東京都港区)
- 22日 栃木県市議会議員会(於:さくら市)
- 22~ 真岡の夏祭り
- 24日



真岡の夏祭りに参加

26日 『8月の会』総会

7月

- 26日 1~3期議員有志勉強会
- 28日 天機奉伺(於:那須御用邸)
- 29日 真若笠抜き
- 31日 ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟総会・研修会(於:東京都千代田区)

8月

- 1日 高田まち
- 4日 会派代表者会議
- 6日 真岡青年会議所例会
- 8月の会『今 次世代に伝えたいこと』
東郷団地夏祭り
- 7日 大谷地区『わかば会』奉仕作業
- 7~8日 地方自治を学ぶ会合宿(於:日光市)
- 8日 子ども議会を傍聴
- 12日 県南6市議会議長会研修会(於:足利市)
- 17日 栃木県議会県土整備委員会現地調査応対
- 18~ 関東若手市議会議員の会総会
- 19日 全国若手市議会議員の会総会・研修会(於:東京都文京区)
- 20日 尊徳夏祭り
- 21日 栃木SC『真岡市民デー』
- 25日 とちぎローカルネットワーク『野嵐会』(於:宇都宮市)



県内の若手議員たちと政策研究(とちぎローカルネットワーク 野嵐会にて)

8月

- 25日 会派代表者会議
議会運営委員会
- 27日 もおか木綿踊り
- 29日 芳賀教育事務所を個人視察
- 30日 質疑・一般質問調整会議
- 31日 真岡新聞音訳作業
(『ひばりの会』の活動として)

9月

- 1日 議員協議会
9月定例議会開会
議会制度定数・報酬等検討委員会
会派建議要望の取りまとめ
芳賀都市議長会
芳賀地区広域行政事務組合定例議会
- 4日 鹿沼市議会議員選挙告示
真岡青年会議所『がんばっぺ祭』(於:芳賀町)



がんばっぺ祭での1コマ

- 5日 あいさつボランティア
- 6日 『ひばりの会』定例会
- 7日 質疑・一般質問1日目(午後・議長役)
- 8日 質疑・一般質問2日目

9月

- 8日 真岡地区区長との懇談会
- 10日 真岡東中学校運動会
真岡中学校運動会
- 11日 真岡日本舞踊会発表会
- 12日 あいさつボランティア
民生産業常任委員会
- 14日 建設常任委員会
真岡青年会議所通常総会(於:日光市)
- 16日 1~3期議員有志勉強会
- 17日 真岡小学校運動会
真岡東小学校運動会
真岡西小学校運動会
亀山小学校運動会
- 18日 伊夜日子会奉仕作業
熊倉4区敬老会
- 20日 会派代表者会議
議会運営委員会
議員協議会
決算審査特別委員会
- 21日 芳賀教育美術展
- 22日 9月定例議会閉会
市議会だより編集委員会
会派建議要望を市長に提出
- 27日 『ひばりの会』小学校読み聞かせ(大内西小学校)
- 29日 自治基本条例検討市民会議を傍聴
真岡青年会議所例会
- 30日 真岡青年会議所総務委員会

『芳賀地区広域行政事務組合議会』をご存知ですか？

市議会は、議員達が集まり市政に関する様々な課題について議論を重ね、条例や予算などの形でまちづくりの方向性を決定する場です。

実はもう1つ、芳賀地区1市4町（真岡市・益子町・茂木町・市貝町・芳賀町）の議会があることをご存知でしょうか？それが『芳賀地区広域行政事務組合議会』です。こちらでも、消防や救急医療をはじめとして、皆様の生活に深く関わる課題が取り扱われています。



芳賀地区広域行政事務組合議会は組合庁舎（旧コンピュータカレッジ）で行われます

芳賀地区広域行政事務組合議会が取り扱う課題

- ・消防 ・救急医療（救急医療センター運営含む） ・学校教育 ・卸売市場運営
- ・斎場運営 ・し尿処理施設運営 ・ごみ処理施設整備 ・市町職員研修
- ・ふるさと振興事業 など

ちなみに、9月定例議会の主要テーマは『平成22年度の決算審査』でした。

中村が行った質疑の内容（概略）

- ①第1・第2環境クリーンセンターにおける収入未済額（31件：449,600円）の原因とその後の対応について
- ②芳賀地区広域行政事務組合教育委員会に在籍する指導主事（6名）の業務内容について
- ③救急医療センターの現状と利用者減少（前年比-1,142人）の理由について
- ④ごみ処理施設整備に関する地元説明会の開催回数減少の理由について
- ⑤卸売市場における水産物部の取扱高減少の理由について

芳賀地区広域行政事務組合議会の構成メンバー（議席順）

大根田 幹夫	真岡市議会議長	佐山 文雄	茂木町議会副議長
中村 和彦	真岡市議会副議長	飯田 資雄	市貝町議会議長
小林 宗利	益子町議会議長	小泉 栄一	市貝町議会副議長
黒子 秀夫	益子町議会副議長	岩村 治雄	芳賀町議会議長
三村 卓久	茂木町議会議長	大島 浩	芳賀町議会副議長

コラム ゼーむあっぴ

作家にして、現在は東京都副知事も務めている猪瀬直樹氏が最近著した本に『言葉の力』というものがある。その中で、東京都が昨年度から新規採用職員を対象に実施している『言語力研修』というものが紹介されており、大変に興味深かった。

もともと私達日本人は、他者とコミュニケーションを図ることが苦手だと言われてきた。そうした中であって東京都が行っている『言語力研修』は、都民と接する機会が多い職員に『情報を正確に理解したうえで、相手の表現の意図や背景を推論し、根拠を挙げて自分の意見を述べ、話し合って与えられた課題を解決できる力』を身につけさせようとしてスタートしたものらしい。ちなみに、今後東京都では『語学力検定（財団法人文字・活字文化推進機構が実施）』を、職員の採用・昇進試験に加える予定にもなっているという。

うがった見方をすれば『東京都はトップもナンバー2も作家だからなあ…』とも言えるだろうが、この問題は真岡市としても決して無関係なことではない。

このコラムの下部に掲載したのは、『中村かずひこ通信』の前号にて実施した、震災に関する市民アンケートで皆様からのご意見をまとめたものだ。この結果を見る限り、3月11日以降に多くの方々からインターネットや電話、あるいは直接口頭によって、私にお寄せいただいた声と基本的には変わらないという印象を率直に受けた。

今さら言うまでもないが、東日本大震災は真岡市にとっても未曾有の災害だった。当然のことながら、私達の想定外のことも起こりうる。したがって震災を受けた直

後、市民はライフラインの停止、食糧や燃料の不足など様々な『不安』を感じていた。しかし、冷静になって生活の再建に動き始めた時、抱いた『不満』は“行政の情報発信力の弱さ”という一点に集中している。

『言葉の力』

ライフラインの復旧や、その後の家屋調査などについて、市民の皆様が指摘するほど市職員の取り組みが怠惰であったとは、いつもは行政に対して批判的なことを言う私から見ても感じられなかった。ただし『復旧に向けて、現在は……』という対応をしています。『この家屋調査の方法は、国のガイドラインに従って行っているものです』といった、市民に対してもっと分かりやすい説明はあったはずであるし、伝達方法についても工夫を試みる必要はあったのではないかと反省材料はどうしても残る。加えて、放射線量の測定値など重要な情報が、ホームページでしか公表されていない現状を見ても、震災時の反省点が活かされているとは言い難い。

こうした“行政の情報発信力の弱さ”は、今回の震災にはじまったことではない。以前から度々指摘を受けてきたことであり、市民と行政の間に溝をつくる大きな原因になっていたことは冷静に立ち返るべきである。

職員の『遭遇』という言葉で片付けてしまえばそれまでだ。しかし、もっと深く掘り下げて『言葉の力』というものを今後いかにして向上させていけるかが問われていると、震災から半年以上が経過した今、アンケートの結果を見ながら強く思うのである。

ご協力ありがとうございます！

震災に対する市政アンケート 集計

問1. 震災以降の生活で困ったことは何ですか？

- 水道（断水、にごり、給水車情報、給水タンクの有無）
- 防災無線がまったく聞こえず、必要な情報が伝わってこなかった
- 家屋破損（屋根瓦、雨漏り、家のローンの上乗せ）
- 燃料不足（自家用車のガソリン）
- 食糧不足（食品の値上がり）
- 電気（計画停電など）
- 放射能汚染
- 専門医が近くにいない

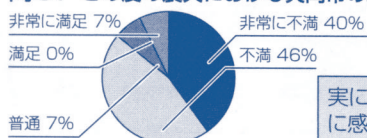
震災直後の「ライフラインの断絶」（水道、電気、電話、ガソリン、食糧）長期的な問題として「家屋破損」（屋根瓦への意見が多い）今後の不安として、「放射能汚染」が多かった

問2. 災害に対するニュースや情報はどのような方法で入手しましたか？

- 防災無線
- 携帯電話・インターネット
- 新聞・テレビ・ラジオ

テレビ・ラジオの意見が多かった。「震災当日の情報源は防災無線のみ」という意見も目立ったが……

問3. この度の震災における真岡市の対応は？（5段階評価）



実に86%の方が「不満」に感じている

問4. 「問3」でお答えになった理由はなぜですか？

- 災害についての情報が得られないことへの不満
- 震災当日に避難所に行ったが、何の情報も得られなかった
- 防災無線がまったく聞こえない、聞き取れない。防災無線が聞こえないと震災前から市に訴えていたが「防災無線に電話で言ってくれ」とだけだった。震災時に防災無線に電話で問い合わせしても、まったく関係の無いテープが流れるだけでそういった対応にも不満。
- 市としての情報発信や震災対応がなかった、見えなかった。腹立たしい。
- 日赤女子高前の道路の通行止めの理由や復旧時期についての情報がない。

災害見舞金に対する不満

- 大谷石倒壊が災害見舞金対象外
- 修理の有無に関わらず、見舞金は支払われるべき
- 見舞金額が少ない
- 住宅被害認定調査員が回ったらしいが、全然知らなかった。瓦とブロックだけ見て損壊と認定したらしいが、瓦の無い家は無事と判断しているのか？

放射能についての対応への不満

- 放射性物質についての市・学校・教育委員会の対応 中学校のプール開き前。汚泥の放射線量が高い、と言われている中、1年近く放置されていた中学校のプールの清掃を、例年通り生徒にさせるというのは、親としてショック。宇都宮市は生徒にさせなかったと聞いた。隣の市なのに、この差は？
- 放射能測定値をもっと詳しく発表すべき
- 風評被害も問題だが、実害にも目を向けた対応を

情報が足りない、他市町に比べて何もしていないという印象、そして放射能汚染への対応についての不満が多く寄せられた。特に放射能に関しては、子供をもつ親からの切実な意見が目立つ

問5. その他、震災について思うことがあれば自由にお書きください

- 普段からの備えが明確ではない。他県他市では防災訓練は定期的にあった。災害グッズの配布や地域での物資の備蓄など、誰でもわかるように明確に案内されていた。
- 真岡も被災地。東北にボランティアに行くのもいいことだけど、県内市内でも瓦礫の後始末などのボランティアを必要としていた。
- 「真岡市のための真岡市募金」を設置して震災前の真岡に戻しませんか？
- 一人暮らしの老人にとっては非常に心細かった。避難所の場所も分からず、困った。
- 障害を持った人間や持病のある人間は災害時に見捨てられてしまうのだと感じた。避難所の設備が貧弱。避難所の掲示板に情報を貼り出してほしい。水だけでなく経口補水液なども欲しかった。
- 真岡市の災害への対策の甘さ、やる気の無さをはっきりと感じた。

「安心安全のまちづくり」からは程遠いという実感。特に、防災無線については震災前から聞こえにくいという意見が出ていたにも関わらず、震災時に情報が得られないという不満の原因の一つになってしまっている。また、他県他市と比べて不満という意見も多かった。いつ発生するかわからない災害の対策だからこそ、早急に改善をし、同じ轍を踏まぬよう、教訓としなくてはならない。

特集

震災・放射線量測定関係の情報について

3月11日に発生した東日本大震災から半年が経過し、真岡市もいくつかの新たな取り組みを始めています。しかし、その一方で市民の皆様からは「放射能」に関する不安の声が多く寄せられています。そこで、今回は現時点での新情報に加えて、市や県の放射線量測定情報を特集でお伝えいたします。

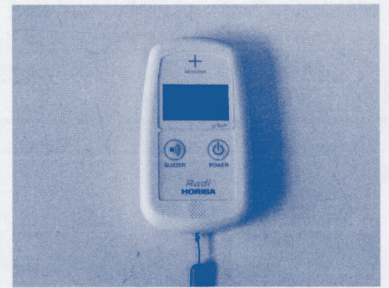


放射能物質に対する市の取り組み

- 空間放射線量測定について。測定器を4台保有、さらに9月末に14台追加購入し、市独自の測定を行っている。市内小中学校をはじめ、市内児童施設（週1回）や市内5か所の公民館（週2回）で随時測定を実施し、HPで公表。
- 水道水中の放射性物質濃度については市内4か所の浄水場で現在週2回（月・木曜日）の頻度で測定し、HPで公表。
- 万が一に備えて、乳児の飲料水として500mlペットボトル水約7万4千本を備蓄する予定。
- より詳細な状況を把握するため、市内を2km四方のメッシュで区切り、全46地点の各所で測定を実施。
- 農産物については、県がモニタリング調査を実施。多くの品目で安全性が確認されている。



県では、震災直後から県産農産物について随時サンプル調査を実施。例えば10月6日の検査ではトマトやナシ、ネギなど16品目29検体についてサンプリングを実施し、全ての検体について、厚生労働省が定める放射性セシウム及び放射性ヨウ素の暫定規制値を下回る結果となりました。



真岡市が購入した放射能測定器

環境放射能の調査結果

【市内小中学校の放射線量測定結果】

1. 実施日 9月27日（火）
2. 測定方法 HORIBA社製PA-1000を使用し、小学校は地上50cm、中学校は地上1mの高さの空間放射線量率測定
3. 測定場所 各校の校庭5か所にて測定
4. 結果 (単位は全てμSv/h)

中学校	学校名	測定した最小値	測定した最大値	測定した平均値
	真岡中	0.083	0.122	0.11
	真岡東中	0.099	0.124	0.11
	真岡西中	0.100	0.121	0.11
	大内中	0.086	0.114	0.10
	山前中	0.087	0.123	0.10
	中村中	0.099	0.116	0.11
	長沼中	0.090	0.103	0.10
	久下田中	0.090	0.099	0.09
	物部中	0.081	0.098	0.09

(単位は全てμSv/h)

小学校	学校名	測定した最小値	測定した最大値	測定した平均値
	真岡小	0.099	0.123	0.11
	真岡東小	0.105	0.120	0.11
	真岡西小	0.084	0.124	0.11
	龜山小	0.093	0.113	0.11
	大内中央小	0.108	0.124	0.12
	大内東小	0.097	0.126	0.11
	大内西小	0.085	0.109	0.10
	山前小	0.096	0.125	0.11
	山前南小	0.094	0.114	0.10
	西田井小	0.082	0.123	0.11
	東沼小	0.092	0.129	0.12
	中村小	0.113	0.129	0.12
	中村東小	0.105	0.126	0.12
	中村南小	0.103	0.130	0.12
	長田小	0.114	0.131	0.12
	長沼小	0.095	0.120	0.11
	久下田小	0.055	0.077	0.07
	物部小	0.096	0.101	0.10

【市内各児童施設の放射線量測定結果】

1. 実施日 10月11日（火）
2. 測定方法 HORIBA社製PA-1000を使用し、園庭の中央50cmの高さで測定
3. 結果 (単位は全てμSv/h)

児童施設名	測定値
真岡保育所	0.14
中村保育所	0.13
西田井保育所	0.11
荒町保育所	0.11
物部保育所	0.10
子育て支援センター	0.13
真岡小留守家庭児童会館	0.11
真岡東小留守家庭児童会館	0.08
真岡西小留守家庭児童会館	0.13

上記各施設では毎週火曜日に測定

市内各小中学校の放射能測定は、月1回実施されておりましたが、10/17(月)から新しく購入した放射能測定器7台を活用し毎週1回行われることになりました

※真岡市のホームページでは、上記測定結果のほかに市内5か所の代表地点(週1回測定、火曜日)、2km四方メッシュによる市内46か所(月1回測定)、市内28か所の公園(月2回測定)での大気中の放射線量率や、市内4か所の浄水場で採取した水道水測定(週2回、月・木曜日)の結果が掲載されています。

※栃木県では放射能に関する健康相談を行っています。詳しくは県東健康福祉センター TEL 0285-82-3321 までお問い合わせください。

火災など災害時の問合せ先

0180-992-118

一般電話や119番での問い合わせが頻発すると、他の災害への対応が遅れてしまう恐れがあります。ご協力よろしくお願いいたします。

エリアメールによる災害情報配信

10月1日(土)より、NTTドコモのエリアメールサービスによる災害・避難情報配信がスタートしました。エリアメールとは、真岡市の緊急情報を、真岡市域内にあるNTTドコモの携帯電話に配信するもので、エリアメールに対応しているNTTドコモの携帯電話をお持ちの方は、災害情報・避難準備情報・避難勧告・避難指示等の情報を無料で受信することができます。

エリアメールの受信設定については、お手持ちの携帯電話の取扱説明書、またはドコモインフォメーションセンター TEL 0120-800-000 へお問い合わせください。

【問い合わせ】真岡市安全安心課消防防災係 TEL 0285-83-8396 FAX 0285-83-8392

エリアメール
着信音で
お知らせ



受信メール
避難通知
〇〇地区に
お住まいの方は
△△小学校へ
避難してください
(真岡市) イメージ